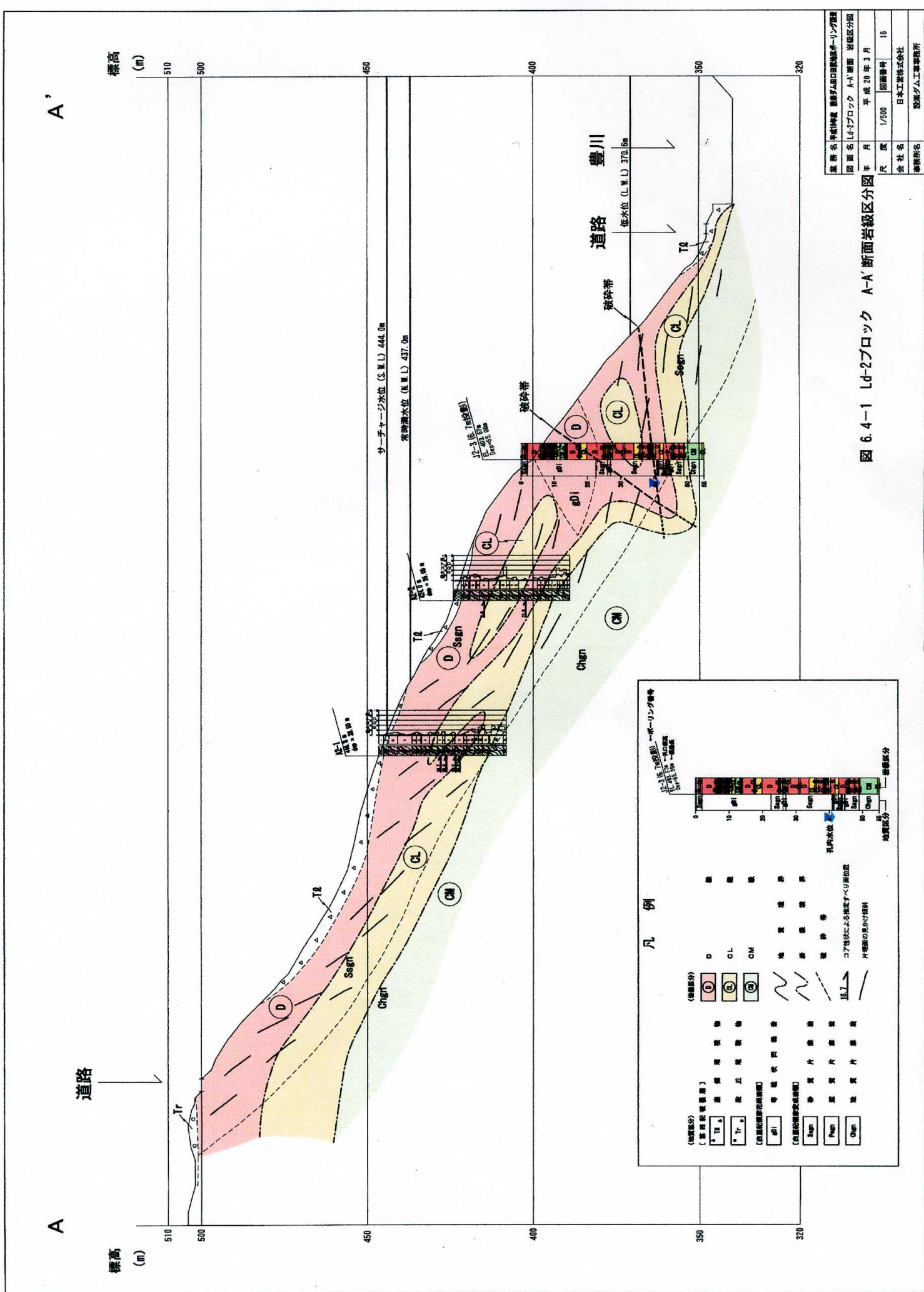


平成20年度  
設楽ダム地質総合解析業務  
報 告 書

平成21年3月

アイドルエンジニアリング株式会社



A'

A

標高 (m)

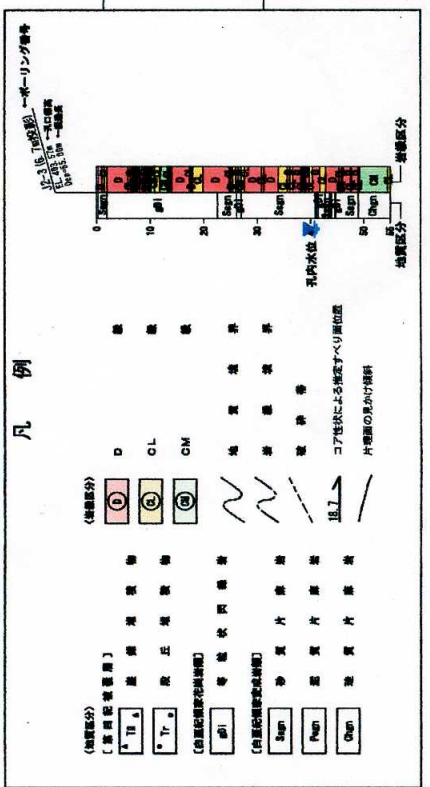
標高 (m)

道路

豊川

道路橋

サ-チャ-ージ水位 (S.W.L) 444.0m  
常時湛水位 (N.W.L) 437.0m



業務名	東海神東 豊川河口田原橋水-リング建設
図面名	Ld-2ブロック A-A'断面 岩盤区分図
年月	平成 20 年 3 月
尺 度	1/500
図面番号	16
会社名	日本工業株式会社
事務所名	豊栄タム工業事務所

図 6.4-1 Ld-2ブロック A-A'断面岩盤区分図

#### 6.4 Ld-2ブロックの評価について

以下の根拠から、Ld-2ブロックについては、いわゆる“地すべり”ではないと判断される。

- ・ Ld-2ブロック周辺の緩斜面(平坦面)については、段丘面の可能性がある。
- ・ ボーリングコアの状況が、CL~D級の繰り返しではあるものの、初生構造が認識できる部分がある。
- ・ 河床部にはCM~CH級岩盤が分布しており、J2-3のコア状況が悪い深度45~50mまでを含むような地すべりが、地形上抽出できない。
- ・ 深度20mまでのD級を示す部分は、閃緑岩の強風化部に相当する。
- ・ 深度20m以深も、コア状況は断続的に礫状~土砂状を示すが、コア形状を保ち基質の締りが良い部分が多く、断層角礫と判断される。深度25m付近、深度43m付近にボアホールスキャナーにおいて断層破碎帯の走向傾斜を認識し、地質断面図に投影した結果、J2-3孔付近では断層によって、比較的深部まで岩盤状況が悪いものと想定した。

ただし、選択的に風化する閃緑岩が分布すること、走向傾斜が認識できない断層破碎帯が複数あると考えられることから、周辺地山はダムサイトなどと比べると比較的深部まで岩盤に複雑な緩みが生じているものと判断され、J2-3孔と同様な岩盤状況であると推察される。よって、湛水時に岩盤斜面が不安定化する可能性は否めず、今後も注意が必要であると考えられる。



写真 6.4-1 J2-3孔 24m付近

コアは礫混じり土砂状だが岩構造を残し、基質(細粒部)部は締りが良く、コアは形状を保つ。